

性講話 「いのちを抱いて生きる」



講師：産婦人科医 廣瀬玲子先生

5月28日（木）5・6限、全校生徒を対象に性講話を実施しました。

今年度の性講話は、廣瀬先生ご自身の妊娠・出産・育児の経験や産婦人科医としての経験を通して、男女の心理の違い、女性の基礎体温や体重のこと、人工妊娠中絶、出産時の母子の危険、避妊、性感染症など、高校生に知っておいてほしい知識や命の大切さや尊さについて伝えていただきました。



性講話を通して、生徒一人一人が自分の性や相手の性、これからの生き方について考える良い機会となりました。自分自身の性や異性に関する興味や関心が高まる思春期に、専門家からお話を聴くことは生徒たちにとって大変貴重な機会となりました。

～生徒の感想文より～



< 男子 >

- ・男性と女性では思ったり考えたりしていることに違いがあることが分かった。
- ・性行為をするのは、お互いの気持ちと避妊と覚悟と責任があるのでちゃんと気を付けていきたい。
- ・「女は命をかけて命を産む」「男は命を守る」という言葉が印象に残った。
- ・性感染症になったらお互い話し合って病院へいくことが大切だと分かった。
- ・妊娠や出産を女性任せにはせずに、男性も一緒に考えて少しでも負担を軽くしてあげることが大事だと分かった。自分が支えになるという強い気持ちを大切にしたい。

< 女子 >

- ・男女の心理の違いが大きくて驚いた。お互いの気持ちを理解して尊重したうえで付き合っていきたいと思った。
- ・お母さんが命のリスクを負ってまで自分を必死に産んでくれたことが分かった。親に感謝したい。
- ・妊娠することは、自分以外にもう一人の命を抱えることなので、責任と自覚が必要だと分かった。
- ・赤ちゃんを産むということは人生にも関わる重要なことだと知った。
- ・中絶は女性の負担がとても大きいので、避妊の正しい知識を詳しく知ることが大切だと分かった。
- ・将来子どもを産む為に、ダイエットをしないで栄養バランスを考えて1日3食しっかり食べたい。
- ・命がどれほど重たく尊いものなのか、出産の場面を経験されている先生から話を聴き、とても重みがあった。より一層、助産師になりたいという決意が強くなった。